

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172901779		
法人名	有限会社 パートナーステーション		
事業所名	グループホーム 和が家		
所在地	旭川市春光台5条3丁目7-24 (電話) 0166-52-0755		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】 (平成21年1月 28日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年7月20日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	21人	常勤	17人, 非常勤4人, 常勤換算11.07人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 18,000円 暖房費(10月~4月)8,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	円
	1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要(平成21年1月 28日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	69歳	最高	93歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	春光台クリニック むらい内科クリニック こかど歯科医院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、父親が開墾し、自身の故郷でもある春光台の自然豊かな高台に「住み慣れた旭川の街で安心してゆったりとした生活」を提供したいという思いで平成16年7月にグループホーム「和が家」を設立した。2つのユニットは、「ななかまど」と「しらかば」という名称を持ち、利用者は間仕切りのある同一フロア内で天窓から差し込む自然光に癒されながらゆっくりと過ごしている。1440坪の敷地に兔や犬を飼い、樹木や芝生、花畑や野菜畑が広がり、周囲には鷹栖町の田園風景や白樺の並木を眺めることができる。運営者は、職員と一致団結して「和が家」を地域の中の資源として位置づけ、地域との連携と認知症のケアの向上、人材の育成に力を注いでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 身体機能の低下に対応できる浴槽については、手作り風の浴槽の雰囲気損なうことのないよう浴槽内と洗い場に複数の手すりを設置した。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各ユニットに1冊用意し、全職員が評価項目を確認する体制を整えている。項目の理解については、職員間で意見交換を行い取り組みが可能な項目は、即日に実行し改善をしている。自己評価、外部評価は運営推進会議で取り上げ、日々のケアを振り返る契機としている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所の2階の会議室を利用して2ヶ月に1回定期的に開催している。「和が家の生活支援の取り組み」「入居者さんの行方不明について」「地域連携について」などについての話し合いを行っている。町内会からの訪問ボランティアの紹介や「和が家」に対する地域の人々の理解が深まるなど、運営推進会議の取り組みが活かされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議の場で家族の意見を把握するように努めている。目安箱の設置や来訪時に話し合いをしている。家族の意見は、連絡ノートに記録し職員間で情報を共有し検討している。介護計画見直しの会議の案内状を送付し意見を反映させている。月1回、利用料と領収書、行事案内などを家族に送付している。事業所全体の暮らしぶりは写真を多用した「和が家の新聞」(季刊)で詳細な報告をしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会活動が活発な地域であり、地域の住民として町内会に加入、敬老会に招待されている。事業所主催の納涼祭では地域のボランティアの協力を得てバーベキューや歌、踊りなどを地元の人々と楽しんでいる。中学校や大学の体験学習を受け入れ、地域の子供たちが兔を見に来たり近隣のお年寄りが畑作業を手伝うなどの交流を持っている。運営者は春光台地区商工振興会副会長を務め地域との交流に取り組んでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所設立時に「ゆっくりゆったりじゆうにひとりひとりのペースに合せた」という基本的な理念で「和が家」の生活づくりを明らかにしている。現在、職員と共に地域密着型の理念を検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、事務所に掲示し、玄関に置いてある公開情報の冊子にも入れて来訪者が確認できるようにしている。ホームページでは事業所の生活の様子と共に理念を公開している。毎朝、2ユニット合同の朝礼で理念を唱和している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会活動が活発な地域であり、地域の住民として町内会に加入、敬老会に招待されている。事業所主催の納涼祭では地域のボランティアの協力を得てバーベキューや歌、踊りなどを地元の人々と楽しんでいる。中学校や大学の体験学習を受け入れ、地域の子供たちが兔を見に来たり、近隣のお年寄りが畑作業を手伝うなどの交流を持っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットに1冊用意し、全職員が評価項目を確認する体制を整えている。項目の理解については、職員間で意見交換を行い取り組みが可能な項目は、即日に実行し改善をしている。自己評価、外部評価は運営推進会議で取り上げ、日々のケアを振り返る契機としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。市内には84箇所のグループホームがあり、地域包括支援センターの職員が参加することは不可能であるとのこと。事業所は年に1回の参加を要望している。「和が家の生活支援の取り組み」や「入居者の行方不明について」などを話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、旭川市のグループホームの質の向上を目指し、全体的な課題を市と話し合っている。行政の関係者が事業所を訪問しSOSネットワークの改善に向けて「行方不明対応指針」づくりを検討、行方不明事故の予防に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、利用料と領収書、行事案内などを家族に送付している。事業所全体の暮らしぶりは写真を多用した「和が家の新聞」（季刊）で詳細な報告をしている。受診の内容や心身状態の変化については、随時電話で報告し、職員の交代については来訪時に報告している。	○	利用者の暮らしぶりや健康状態を月1回個別の通信で報告することができるよう、期待したい。また、職員の交代についても通信に記載することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族の意見を把握するように努めている。目安箱の設置や来訪時に話し合いをしている。家族の意見は、連絡ノートに記録し職員間で情報を共有し検討している。介護計画を見直すための会議の案内状を送付し意見を反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、休憩室を設け、その環境を整えるなどで職員の心身のストレスを軽減するよう努めている。利用者や職員の馴染みの関係を継続できるように病氣療養後や出産後に復職する職員もいる。ユニット間の異動などで職員の交代がある場合は、利用者の状態に応じて説明をしている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数に応じて研修受講を勧めているが、主催地が市外であることが多く勤務調整に苦慮している。市内で行われる研修には積極的に参加している。研修案内は、事務所に掲示し参加者を募り勤務扱いとし、月1回の全体会議で報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内21事業所の任意団体である旭川グループホームケア研究会に所属し、事例研究を行っている。また、近隣の他事業所と職員の相互訪問実習を3日間実施しネットワークづくりやサービスの質の向上に取り組んでいる。		
kus					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅で生活をしている場合は、家族や本人に複数回の見学を勧めている。入院先からの入居は緊急を要することが多い。他の事業所の見学を勧めることもあり、本人が納得して入居できるよう配慮している。帰宅の願望が強い場合は一緒に外を歩いたり、言葉かけを多くしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人や家族から生活歴を聞き取り、一人ひとりの利用者が得意とすることを把握し、支えあう関係を築いている。あんこ餅を作る、鯨漬を漬けるなどの本人が長年行ってきた動作に、職員は学ぶことが多いと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
。					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族に、困っている事や心配事を聞いたり、日頃のかかわりの中で、言葉や表情、態度など、利用者の状況を引き継ぎ時に報告して職員全員で利用者の希望や意向を汲み取るように努力している。利用者が、他の人と話している時の態度や言葉、感情などでも思いを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の介護計画は、家族からの情報、入院時は、病院での生活状態を直接医療関係者に聞き取りを行い、10日～1ヶ月の暫定的な介護計画を看護師、職員と相談のうえ介護支援専門員が作成している。介護計画作成後は、家族に説明し署名、捺印を得ている。	○	一人ひとりの心身の状況に応じて、可能な場合は、本人の分かる言葉で説明し、利用者自身が署名、捺印をすることができるよう、期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは、3ヶ月毎に行っている。日頃の経過記録や健康情報と共に、看護師、職員と相談のもと、利用者、家族も話し合いに参加して貰い、現状に即した新たな介護計画を作成している。入退院や水分摂取量、体重変化、精神面での変化などがあつた時は、随時見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、注射やインフルエンザの予防接種を事業所で行うなど、柔軟な支援をしている。早期退院をして、訪問診療で治療を継続した事例もある。かかりつけ医への送迎も、家族の状況に応じて柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続は、可能になっている。家族の送迎でかかりつけ医に受診する時は、身体状況の記録をコピーして持参して貰い、診察結果を報告して貰うなど、利用者の健康面を把握して、かかりつけ医との連携も整えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「緊急時の対応について」の書類に、緊急時の搬送先の希望や延命処置について確認を取り職員が記入している。看取りの希望があれば対応が可能であり、実際に看取りも行っている。入居時に「入居者看取指針」の同意書を作成して、事業所としての医療行為範囲と対応について説明している。	○	「緊急時の対応について」の書類は、延命処置などの項目もあり、重要書類と思われるので、今後は、家族や利用者に直接記入して貰うよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時は、ノックをして声かけしてから扉を開けるようにしている。利用者に関する事は、職員同士で大声で話さないように配慮している。個人記録は事務所で保管し、利用者の前で記録する時は、見えないように工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個人的な外出希望にも、すぐ対応するように配慮している。日勤者が当日のリーダーになり、計画を立てて体操したり、手踊りなど、レクリエーションを行って楽しめるように工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、事務職員と介護職員がチームをつくり、職員と利用者の意見を聞いて作成している。利用者の誕生日には好きな献立にしたり、スパゲッティの予定日が、暑くなると冷麦に変更したりと、柔軟に対応している。利用者と一緒にホットケーキを焼いたり、戸外でバーベキューをしたり等食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人週2～3回の入浴を目標に、曜日や時間など利用者の希望に沿って入浴支援を行っている。入浴拒否者には、声かけする職員を交代したり、時間帯を変えるなどの工夫をしている。異性介助は無理強いしないが、日々の信頼関係により、現在利用者の拒否はない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状況に合わせて、おしぼりたたみ、洗濯物干し、シーツたたみを手伝う、食事の時に箸を揃えるなど役割を持って生活できるように支援している。野菜や花を種から育てたり、保育園の運動会やお遊戯会の総練習を見学に行ったりして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、利用者の体調や天候に合わせて、戸外に出て体操したり町内を散歩するなど、利用者に合わせて外出支援をしている。飼っているウサギの餌やりや、畑に行って野菜を取ってきて貰ったりしている。冬季の天気の良い日は、飼っている犬を見に外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間のみ行っている。玄関にセンサーを設置すると共に、マニュアルを作成して日頃から利用者の外出に対して注意を払っている。一人で戸外に出ても庭に居るときは室内から見守り、道に出たら後ろからついて行き利用者の安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年1回初期消火、通報訓練、救命訓練を含む避難訓練と自主訓練で昼夜を想定しての訓練を行っている。訓練後は、反省会を開催している。火災発生時は、地域に協力を得られるように応援態勢を整えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量は、利用者の状況に合わせて把握の必要な利用者のみ記録している。医師による、血液検査や便の状態での水分摂取量の過不足を把握している。今後は、栄養士資格のある職員が、栄養チェックをしていく予定である。	○	把握の必要な利用者を記録していたが、利用者の状況にかかわらず、健康面の把握のため全員の水分摂取量、食事摂取量の記録を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けで広々とした食堂や居間には、食器棚や昔懐かしい足踏みミシン、黒電話などが置かれ、家庭的な雰囲気の中で落ち着いて過ごせるように工夫されている。手作りの日めくりや季節の花を飾るなど、季節感を意識した配慮がなされている。対面式の台所は、食事の支度の様子や料理の匂いを感じ取る事ができ、生活感を常に感じる事ができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には、果物の絵が表札として飾られている。箆笥やベッド、椅子など使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれ、それぞれの利用者が落ち着いて過ごせるような工夫がされている。トイレ、洗面所も備え付けられ、排泄の面でもプライバシーに配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。